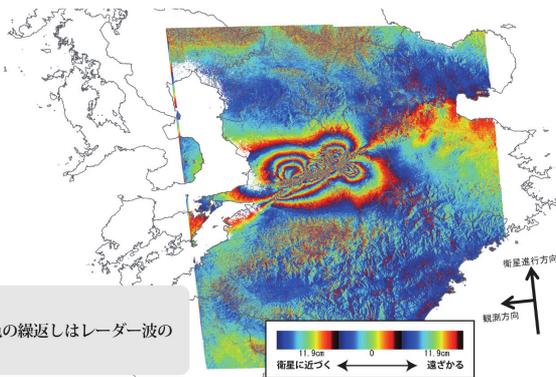


# 大地の歪みを宇宙から測る

JAXA が運用する地球観測衛星「だいち 2 号」に搭載された合成開口レーダー (ALOS-2/PALSAR-2) は、地震前後の観測から地表面変位 (水平・垂直方向への地面の移動) を計測できます。これを色で表した画像 (干渉画像) を拡大してみると、縞模様が不連続になる部分が見られました。現地を見て回ると、小～中規模な被害が生じた建物や道路の位置と対応しているのではないかと、という示唆を得ました。この手法をさらに発展させることによって、航空機や光学衛星では見逃してしまうサイズの被害分布を推定できるようになるかもしれません。



右図：PALSAR-2 の観測によって得られた熊本地震の干渉画像  
地震前後 (2016/1/26; 4/19) で生じた地表面と衛星との相対的な距離の変化を計測した。色の線はレーダー波の波長に対応しており、熊本から大分にかけて広範囲に地殻変動が生じたことが分かる。

